28P-am325

東京薬科大学薬学部における免疫学実習について

○本多　秀雄[1], 大塚　勝弘[1], 湯浅　洋子[1], 森川　勉[1], 青柳　裕[1], 伊奈　郊二[1]([1]東京薬大薬)

目的】東京薬科大学薬学部において生物系基礎実習の一つである免疫学実習を二年生の後期におこなっている。東京薬科大学薬学部の基礎実習教育は重要な基礎薬学の教育の一環として位置づけられており、学生に効率的に内容の理解、習得できるように改善、改良され今日に至っている。今回は、学生に免疫学実習の教育効果についてアンケート調査を行い、その内容と現状について報告する。【方法】免疫学実習は 4 日の実習を実施している。免疫学実習の項目についての理解度を項目別に解析をおこなった。①実習の項目別の内容理解度、②実習テキスト、③実習室の設備、④実習の満足度、⑤実習前後における薬学に対する興味の変化等々、実習終了後、学生に対してアンケート調査を行い集計した。【結果・考察】理解度は実習項目により差はあるが学生はほぼ満足すべき理解度を示していた。実習全体の満足度に関しては 95%以上の学生が満足していた。特に「イムノクロマトグラフィー法によるヒト血中 IgE のアレルゲン反応性の検出」には自分の血液を用いて実験を希望する学生が多く、学生には興味深い実習のようであった。今回のアンケート結果から、本実習を受け、ほとんどの学生が講義内容の理解度を深めることができたと考えられた。実習の教育効果に対する重要性を再確認した。今後、このアンケート結果を考慮し、学生の理解度をより深める教育方法を推進したいと考えている。